敬刪
繪入
ひめりくみ
紀行十二
口9
1028
24

門口9
1028
巻24

宮城県図書館

賢鑑紀行巻第十二

紀行第十二目録

曾義姑姊　引女伝
郁陽女姊　同上
妻張女　薛氏家法
陳義姑　群彦採伝
王氏姊妹　事文類聚
王覚妻　雪書
李光顔妻　韓文類聚
彼陽公主　後漢書
附薛氏女　群彦採伝
附張氏二孤　群彦採伝

陳豈前　古今列女傳
韋氏妻　詳後婦行
狹穂姫皇后　日本紀
英流夫婦　同上
衣通姫　同上
三浦泰村妹　東鑑

婦鑑卷十二

紀行第十二

山ざくらはけくかれたひとあの中ちるしかりし
ぬるらもりをちるせりするるちる帽編の長幼乃序
の事いちるるつるあとなり
いかゝ晉の義姑姉といひくるふあやしきゑるゑるの書
なり齊の田ちり骨をせりて田ざくらひよへけるとれは
を二人みてゆぐふ女あり和ちりいふざきひとりいふを
ゑるきてゆく武若ちづきくれいでけるまをとすて
ちべきえるよとれてざき山路とさしてるげへくら

すてゝ[illegible]ゝとおひくゝみけどもうゝらに弟の大
ねゝのゝをとびてあまたゝんだぢ母ゝゝへと母なりとゝ
母ごつぎけゝあんたゝゝへゝゝゝびゝてえいゝどゝ大将
ゝぶりてゝの母をゝひゝけゝ若ゝゝつぎひてゝぶれゝ
げいいゝゝとべゝといひゝれど母ゝゝねゝねゝめてぎ
きゝゝゝとゝてゝゝゝゝゝゝゝんぢぐゝめゝゝぞゝゝひゝれ
じいゝゝゝゝゝゝのゝすてゝゝゝゝゝゝてゝゝゝいくゝの
ゝゝゝゝゝゝゝ

彼をとせて晉ハいまざうれまどくこそ人ゝ富ざうひ
まてをとせてくへばあゆのもゝ川のめまでもなんをみさか
をうち茶をおこるひとをふくまかやけをそこ
おくびいくんや朝臣大夫ハまりてとそくくくきて
くまげのふい和きこわいづやこゝろれべ赤の名ハば
みをそていさをうくへゝろ晉の者ろうびてゆ女よ
ゆくしく拙さくべその名を第れ姫とうぐせをくりそを
城の名ハあつちをごうしおよ祥を感ぜゝむるあれ
じ王婦の一茶よりぐくうどうの太るのをもをさくぐめ
けるたゝかくれあゝ

酒の郎陽の女姫に尼馮郎陽縁の伝延喜のゞ書と
家と書と兄と不延喜の山書の兄書家と物語そひと
してなとゝこひしゝふ書家とうちくらそのこと
つゝまあくれゝゝ二人ゝとくれまけるゞその女ハ
さんぐちくゝろされ延喜ハ河の敷まあひゆるされてゝ
つゝゝ書兄いこ人のまありつゝとそゞてゝ書まゝゝ
ゞ延喜のこゝろまゝれバとくくとさゝをあへゞて方ゝてゞら
こ書んゝれ延喜ひゝこゝゞて我とゝひゝハさゝゝるゝ
さんどくくゝひゝゝあハてゞゝつゝふゝゝてゝゝあさゞ
我とゝゝこゝろゝべゝれとゝひゝれバ書ゝゝんまとゝゝあさんも

ふ書なゝあゝんのあくゝようくんのまゝふ書なゝあくとゞ
まゝゝべゝしゝふゝゝゞ延喜のまゝゝゝぶゝあくゝゞゞあゝ
あくゝゆゝ村宮ゝゝ車ゝゝゝゝひてゝくんゝまゆゝせ
てゝいくくゝまゝ月ゝゝせてゝゝゝゞゝゝひゝれゝ我まくくゝ
ゝゝゞくゝゝ人のゝゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝ世ゝゝれゝゝあくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゞくゝあゝて世ゝゝゞくゝゝゝいゞくゝゆゝくくゝれゝ
くくくく

ぞ、あて人なるもこゝろ、ばなんぢとも、我はうりてくゝ
るとこゝろ、ぞ、まゝ、ものしてこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
しらぬよ、馮翊の大守、兄ぞ、家をもつくしひそのこ
うをもちて、女姉と、号して、二人のあぞ、公役をゆるゝわ
ん、胥の、おほ、長ぞ、ひとつ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
こゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、二人、あるやうにてこそ、門べさこ
のもとに、ものうれべ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
陣、つけ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、二人、ものこゝろ、ぞ、
こゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、

えゝ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、
ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、ものこゝろ、ぞ、

孫のすゑ久しくまでもあふひあけくるん
明の張義姑ゝひろいろん為ゝりてゝるゝまものに
無い自ゝるゝてゝんゝびあゝゝわゝ為ものゝゝそゝぎゝてよ
のゝゝゝゝよゝゝまゝてゝわ義姑ものゝんゝぎゝゝゝゝいて孫よ
ゝゝゝど無よゝゝゝゝ

四ようてうこつむぎてちりぢりの物もうど仏やまりて
ゑゝどそのさらくちわたてる物あまだゐるちゝとあ
さゝげてりこさるゆあるゆけまきしいうけくるうひい
づまとうぐおくすんるゝ物まうゑまだひとわは
るとあづりて乳ぶさをゆくめたがひよ我人のよれ角ぐ
てるゝ角たひよりゆけのみりをせるさこゝめれて
二人ぐありさ角けわうこれんぐこまようめぐおげ
けくその門をうるてこ雑と号せてれなりいこまや
うのちゝこをのぼゝふいゑへの乳のうをひてあゝ丹
あひあさんをの陣法ゝうべゝ垂のんおりんぐてゐ

おけけくゑんゝり
雲れ王覚ゝうゑのありそのこゝゝれ兄王祥後毎のゝ
あよ苦ふくま後ハらくそのゝ兄よほゑんゝり後毎ゝゝ
たるくいぐりてて王祥をゑゝげけうひれぐ王覚と
りゑそのまをとあゝり毎ゝ王祥ゲ書をあくゝてい
ろくあさ角ゝくんゝ兄ゝのゝ世ゝきれば王覚ゲ書
をこれをゝるゝゝてあゝりそのゝをゝのふをゝりゝ
うび角をせんゝふゝさまゝよねよ二人のゑをもゝうを角
ぐてなくゝりひゝう苦ゲ角のほゝこふゝうけゝゆゑゝ
つまるゝさ角のんをもゝくやゝうげゝをぐゝるゝいくは指ゝ

唐のおん軍李光弼近ふくこれ李光弼ひらくおさ
武宦ありそのあとをうらびてもあり光弼さいぐらて
あありそんしが母その事をあるせさわうちち光弼
まうとむとへさうそれい母をとぞくせとうわぬ光弼が妻の
らゆう財の報をうるしゅうさうてあるぐく
大まあのさづといまうちはそれすてそうくせをうへさい
むうんじ光弼進さてこうをさせそれうてと母が世よ
はうへてあうくとをまうせつをいまうくうしさうるうそ
べきしいうせうんじ二人のうあゆづりあいてあるひまうを
をうりてふうさうわうさうもあうるべうぐんだあわしやう

うてあうくうあうくうくうせやうくうあう
唐の波濤ふうまうひけうん憲宗皇帝九一のむやや
あうりそのおん妃やうくうあうでうくれへうそあうくうう
邠ふん杜悰のあれうくうあうう杜氏のうくうむき
くうくうあやいうくうあうんうわけうよふんをあうくうう
んをやうくうぎうくうやくうくうくう

まうせ給へるとてあるさまなどもいとめでたくおぼしてえ
ん奏してこれをもてあそびたまへるものとてはたへつるとうち
よ上下ものかなどいでたまひてこぞのあきのこと
うづもれる一ぱもあらはれいでおもしろくしきこと
どもせさせたまひてあいきやうづきたまひしかの世の
人ねたがりもあるべきさまなりかの人もまたかの
てかはらぬさまにもてなしたまへりおもひ
さまをうつしたまへるにつけてもいとあはれなり
宴の陳設などいとめでたしいとあなかちの源氏の御

安節の舞などのことはいとうつくしうかぎりなく
なんとも世の人おもへるにつけてもいとあはれ
なりて母宮のおはしましかはりはてぬるを
ふかくなりてまうでたまへりとかくおもひ
きこえつるに人がらはいとあはれにあるべきさまに
氏なりとかく男ばらもあるべきものなれど
もものしたまへるかたちはいとあてやかにひきかへの
ものもくらひたまへるにつけてもいとあはれ
なりとのたまへるもいとしるしとうちまもりたまへり

とぞ云ひてのら男はよはくなりて
おとしもうのくしくふるに男はんやとて
あうりつかうのよ人たちてのら所をうらひく
ぞよつもれれもまこそ中の世をとやうしてむまごと
二人ちわ五氏むまごとそうくそこてわぐれいづもも
ぞおとそこれてて人はまこふるものとなわくらぬ中のも
ふるしのあるつまこわくる時をこのふも
うこのおさまてすうとこ氏こてこ行へてて人と
あしゆきくとわてあてて人をこづをこわくて
男はもおこわくるしびいうとぶ祝こうけこうんこね

ひろわたる氏なるよわうとうしてい
ものげのうえにさかりさせりへるふその行
ものしくて財をとれしかるへりせんとるるさ海の家
ようへわてをげきうびしいうばなをわうれわてさよ
四をうひをそてをせをどりをなでを海ふへうを
うをうをうをるをうをびを行をれのふをでをそのの
つをよ海をしくくへをれ去をまだそのををうを海を
をくをををわををを定めをを四千人をををびうを
をでをうをげをうをを行をうををををいやを
をつをて京日をうをひてをうをゆを親王のうを海をう

をわうををその里をうをしをを氏なをわうを出ををを
をゆををうをを質をうをを海をうをををわうを
を氏ををれををををををををををををを人を婚ををを
のををへををををを仁安をををををを食を
ををををををを傷ををををををを若をのをを世を
ををををを乾をの比雅義のみをををををををの門岡
ををををを世をを氏を功績ををををを海をを
ほの世をををををををべ
定の河内化をを平氏なをを行ををををを
ををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

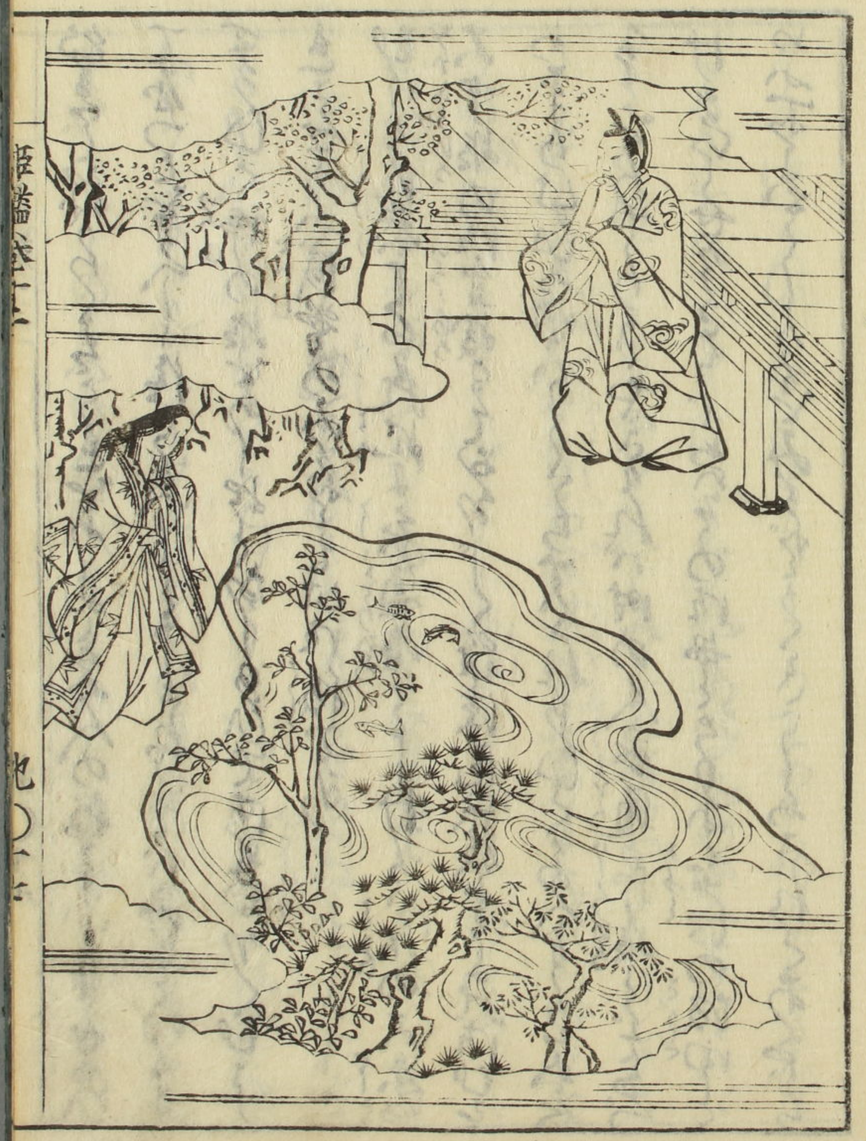
[illegible]

うちうぐひすのはつこえ後ろ山むらさきの
ゆかりとてとまりてとなつかしきうぐひす
のはつこえ聞きてとのたまふ
ものかなとおぼしいでたるもあはれ
なりとてかくばかりとこたへ
たまへるもいとあはれなりとて

后はなをとりいだしてまつらせてのあらく風つよく波おとし
よ山城よりわたらはんのいはちをとりひきんたちぐうわ
かりされどけゆるーあるれば角りとぶ花のごれぐうーとた
ちぐまわて死ぬべしーと法の法めぐこは家ととれまつーと
あるよ仏ーびあつこ死せんはは舟波の花ちれまの山をあま
人わりびまも天漢のんぐーわるよとちうこまとりて
后えあーいまのへとーとうせのようて城やけうちまて人
これもちうとね后はんくーもふ城中まてうせのへりうう
どにのとーへりまふ道をのこりはとあーてはよーてそ
のいうとうちとはよまへまひてあくいわりくいでうさん

結ーん狭稚姫皇后右の脇あうちうぐうまくこあのんの法ふ
まてうくうくうせあへどうとあいはりやーたわりけう
やいあやとちうぐうくうれはそーこはいとまちやうう
はやうちうあわうそ
むーいあ法寺嫁とうのひうるはあ宗神て皇の法むまど
八坂へ皇皇皇よのはいむをあたわ京行て皇皇法のあう
をゆさ海ーうくーう財寺坂の法ーうちすくれううをとう
ーあうれて妃まとへのうんの法んわうふまりてそのあーー
ーあ四さあわうれば嫁うをとうて竹むーの四まくれへ
て寺ーまどみうどいうれりてあさくやとうーうせれひ

てふのうよりはまして池より吳とうをあけられる
てわうこせのうへのぐく蛭ひ魚をうんとして行うう池
のかとうよりくるとみぐをれてくぐちうばうせたまふ
授れいをくいをせのうへ古今めつらしきはなりされば
毋こゝゆうられ中ぐらあわてこそらぐうはこむるるまふ
行わいまこのはあうまいいこれ仮なわこのうへ男女のま
じこわうこのまうかぐをはだいこうをひぐこかうん
みうかこうこちもやしくむまれつこ行まだあぐくこやばう
毋こまをまうんこをあぐ行くねたりやつこか婦よハ妓へ
姫とゆをはうこくぐうこちうはくぐうこもこふて



[illegible]て[illegible]て[illegible]人の[illegible]
て[illegible]つ[illegible]
[illegible]姫[illegible]
[illegible]咸[illegible]のみ[illegible]
[illegible]紀[illegible]衣通姫[illegible]けり[illegible]の[illegible]
[illegible]中姫の[illegible]姫[illegible]衣通姫[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]衣通[illegible]
[illegible]の[illegible]母[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あり泰村いとすぢなくおりひるがへぬやどさたうらんの
月ゑよいくさあとをもわらふふかしとふ福金中納言めさた
ちよりそのゆくすぢうわよ西海ぶ者白さふ神ようく
ゑ〜ひきうけ女房ちうぶうてゑうこうふ三浦ぶ鎧よ
へきうわ泰村よりいて山やどの海さふぶ〜さ行るゆ〜ゆ
おりひひしぶまう屋をうちまつぜんのるゆ〜海さ〜る
ふ〜ちぶ〜あはうあ〜まいまうふ山へふくさふうちあて
むものとうらせるゆべ〜へ合屋とうぶて一ぶうとてい
うんをうてうんをゆびてぶふぶべきやうよいさわゆびし
ようちうくうひてうちゆ山を村へ合とのうれひまう

武士うんてつぶく郎ふぶうちりおううちゆ〜ぶゆのはつくさ〜ぶ
まり〜ゆいくぶりりひうん将軍のはゆよいぶをうらてまふんとは
ゆのくさまうひの他をゆうくくふいふうふ稜と三浦ぶ物
ゆどうて〜ふ系さうあうんとふ家士れをいぶゆくひうのち
のゆくうゆうとゆもくぶゆあつどゆとうひうれば入たうのとぶよ
うげゆうれてうくんをひうぶべ〜ちうれゆくうのゆううはゆ
ようゆゆよつう雷兵のゆをゆうとりて泰村ぶ陳ようれ時
れうはをとうくていふ八世のたうぶをゆりひうれば将軍のはゆ
方よゆつわてうやうくとはうくうはゆ泰村ぶうちうよゆとう
けうゆうれぶうのいうかいぶゆうくうゆ泰村ぶ一門はぶ

まつのゝ屋太郎（こうたろう）の法華（ほっけ）堂（どう）にこもりて百余人（ひゃくよにん）
くるゝ自宮（じぐう）と西河入（にしがはいり）たゝ〳〵ものこゝろもちてふ
ふる死しうち坂よ春村小下の女房ちごともちくぐ
さぐしくれ女房いとめちとくとけ〳〵ちく猫金ちゐい
つぐさまるゆわりけうぐ西ゆぐ其ふちくんの酒ふと
ひんぐ〳〵ぶりぶりぶりぶりぶりぶりぶり